

第22回参議院議員通常選挙支援体制について

日本医師連盟は、去る6月30日(火)に開催した執行委員会において、先に5月19日(火)開催の常任執行委員会での決定を踏まえて、平成22年7月施行予定の第22回参議院議員通常選挙における日本医師連盟推薦比例代表候補者である西島英利参議院議員の支援体制について協議し、後援会活動における支援名簿獲得目標数を300万人とすることを決定しました。その算定基礎には日本医師会A①会員数を用い、全数で除算するとA①会員1人当たり約36人になります。

北海道医師連盟に対する獲得目標数は7万3千人であります。

前回、平成19年7月に施行されました第21回参議院議員通常選挙(日本医師連盟推薦比例代表候補者は武見敬三前参議院議員)では、後援会員の獲得目標数は全国合計100万人で85.6%の達成率であり、北海道医師連盟でも3万人に対して86.0%の達成率に留まりました。

したがって、今回の北海道医師連盟に対する獲得目標数「7万3千人」は倍以上にハードルが上がっており、甚だ厳しい数値目標であります。

しかし、現下の厳しい経済情勢と混沌とする政治情勢の中で、わが国の国民皆保険制度をしっかりと堅持していくためには、国会議員となった今日でも診療活動を実践し、かつ社会保障制度論にも精通した西島議員の優れた政治手腕に期待するところ大であります。そして、その力を余すことなく発揮していただくためには、西島議員に高位当選を果たしていただくことが肝要であると考えます。

連盟員各位におかれましては、どうか諸事情ご賢察いただき、北海道医師連盟の支援名簿獲得目標数の達成のため、そして今後の支援活動に対しまして、引続き特段のご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

参議院議員 西 島 英 利 (にしじま ひでとし) 氏

昭和23年 宮崎県生まれ
昭和52年 日本医科大学医学部 卒業
昭和59年 北九州市、医療法人小倉蒲生病院・小倉南看護専門学校理事長
平成2年 北九州市小倉医師会理事
平成6年 北九州市医師会理事
平成10年 日本医師会常任理事
平成16年 参議院議員 当選
＜参 議 院＞ 厚生労働委員会委員 決算委員会理事
＜自由民主党＞ 国会対策副委員長 厚生労働部会副会長
社会保障制度調査会副会長
ホームページURL <http://www.nishijimahidetoshi.net>



第22回参議院選挙 日本医師連盟推薦候補者

挑む医師。いま、守らないと、この国は「医療」から崩れる。

にし じま ひで とし
参議院議員 西島英利
(比例代表)

<政策目標>

1.健康基本法の制定

「医療とはいわば、生命の安全保障である」という信念のもとに、憲法に定められている国民の健康権をより確かなものとする「健康基本法」を制定します。

2.医療保険をより使いやすい制度に

国民皆保険のもとで、フリーアクセスと現物給付の機能をさらに強固なものとして、医療保険をより使いやすい制度に進化させます。

3.安心医療の環境づくり

国民が安心して医療を受けることができる環境づくり、医療関係者が安心して医療を提供できる環境づくりに全力で取り組みます。

4.小児医療の充実

子どもたちと親たちのために、ひいては少子化対策のために、いま弱体化が叫ばれている小児医療の保護と充実を図り、「小児保健基本法」を制定します。

5.高齢者医療制度の見直し

国民が安心して長寿を迎えられる社会にするために、高齢者医療制度を根本から見直し、改善します。

6.地域社会ネットワークへの貢献

「孤立こそが精神保健上の最大の敵」だと考えます。一人一人の国民が孤立しないよう、地域全体で支えあう「地域社会ネットワーク」をつくり、自殺防止のための様々な施策を推進します。

7.個人情報保護等のインフラ整備

遺伝子研究などによる医療技術の進歩のためには、個人情報保護などのインフラの整備がきちんが行われることが前提となります。そのために「個人情報保護法」にかかわる医療分野の個別法の制定を実現させます。

8.医療費の財源確保

医療提供体制をより強固なものにし、社会保障としての医療の発展を可能とするために、不可欠となる医療費財源を全力で確保します。



当日ご講演いただきました尾辻秀久自由民主党参議院議員会長の講演録をまとめましたので、ご高覧願います。



講師 尾辻 秀久 先生

講演 「日本の医療を考える」

自由民主党参議院議員会長
元厚生労働大臣

尾辻 秀久 先生

本日は、北海道医師連盟の代表の先生方がお集まりになり、このように盛大な会をお開きになりましたことに、御礼を申し上げます。

また、今日は、鹿児島県医師連盟の米盛委員長、福岡県医師連盟の横倉委員長にも、わざわざおいでをいただきまして、ご挨拶をいただきました。私も九州の一人でございますので、北と南で仲良くしていただいておりますことに対しまして、御礼を申し上げたいと存じます。

来年の参議院議員選挙は 天下分け目の戦い

今日は、先生方のお集まりにお呼びをいただき、お話を申し上げる機会をいただきましたことを大変光栄に存じております。

今日、私は前座でございます。真打ちは西島先生でございます。今日のお集まりのご趣旨も、いよいよ来年に迫った参議院議員選挙、西島先生の必勝を期してそろそろ準備を始めよう、そういうことであろうと思います。

私ども参議院の立場から申しますと、近く行われる衆議院議員選挙も、来年の参議院議員選挙の前哨戦であります。来年の参議院議員選挙こそ、何があっても勝たなければならない天下分け目の戦いだと思っております。どうぞ来年の西島先生の勝利に向けて、先生方のご支援を賜りますように心からお願いを申し上げます。

骨太の方針

本日、私に頂きました演題に入らせていただきたいと思います。

「日本の医療を考える」という題になっておりまして、この問題、真正面から向き合い、お話を申し上げるということになりますと、これはどこまで行ってもという話になりそうであります。

そこで、今日のところは、骨太の方針に社会保障を、医療をどのように書くのだという議論が続いておりますから、この議論の経緯などもご紹介を申し上げ、その中で私がどのように思っているかということをお願いしたいと思います。

まず、骨太の方針というのはどういうものかということであります。これは、政府が次の年の予算をどういう方針で作るか、編成するか、その基本方針を述べたものとお考えいただければいいと思います。したがって、今6月、骨太の方針を書こうといたしておりますけれども、これは来年4月から再来年3月にかけての1年間の予算をどのように作るか、編成するかという基本方針を定めるものでございます。そして、この後シーリングという作業があり、概算要求という作業があり、いよいよ12月の予算編成に向けていくわけありますけれども、その辺の話は省略をさせていただきます。

まず、この骨太の方針でありますけれども、これは政府の基本方針であります。したがって、閣議決定をいたさなければなりません。どうやら（6月）23日ぐらいに閣議決定したいようであります。

閣議というのは、総理大臣を真ん中にいたしまして、全大臣がぐるっと取り巻いて会議を開く、ここで決めて、総理大臣初め全大臣が署名捺印をして決める、これが閣議決定であります。

ただ、この骨太の方針も、この手続きを踏みますけれども、これが率直に申し上げて、単なる手続きになっているところに、問題があると思っております。これは手続きであって、本当は経済財政諮問会議が書いているところに問題がある。

経済財政諮問会議は諸悪の根源

この経済財政諮問会議というのは、一体何者か。私に言わせてもらおうと、諸悪の根源ここにありであります。日本の社会保障、医療をここまで追い詰めてきたのは、ずたずたにしたのは、経済財政諮問会議だと言わざるを得ない。そして、今年もまた、この経済財政諮問会議が同じように書こうとするから、絶対にそれはだめだと、私は立ちはだかっていようつもりであります。弁慶のごとく、全ての矢を受けて立ちはだかってやろうと思っています。本当に、力尽きて倒れるならば、それも本望だと思っております。

経済財政諮問会議というのは、実は橋本内閣のときに誕生したのであります。総理大臣に対する諮問会議なのであります。総理に対して、こんなことをしたらどうですか、こういうふうに考えますがいかがですか、と諮問する会議なのであります。当初、橋本内閣のころは、ほとんど注目を浴びるような存在ではありませんでした。これが小泉内閣になって、がらっと変わるわけあります。実質の政府の方針、重要な方針、大事なこと、全部この経済財政諮問会議が決めるようになってしまう、ここから問題が生じたと私は思っております。

この経済財政諮問会議、おかしいことが幾つかありますけれども、その1つが総理に対する諮問会議なのに、座長が総理です。自分が座長になって、自分に対する諮問を取りまとめる。こんな都合のいい存在はないわけあります。ここで自分に都合よく意見を出してもらって取りまとめて、経済財政諮問会議がこう言っておりますからということにしてしまう、小泉・竹中ラインが見事にそれをやったわけあります。

竹中という人を評して、他人が決めたこと、人が決めたことを、決めた本人よりももっとうまく説明する人間だと言った人がおりますけれども、私も全くそのとおりだと思います。小泉さんのやりたいことを、決めたことを、小泉さん以上にうまく説明しながら、この経済財政諮問会議を仕切ったのだと思います。

国会決議を無視する民間議員

この経済財政諮問会議、当然大臣も入っておりますが、大臣は忙しいし、私なども厚生労働大臣のときに、諮問会議やるから集まれと言うのですが、もう直前に飛び込むのが精一杯です。実際、誰が意見を述べるか。4人の民間議員という人たちがいますが、この4人の民間議員が意見を述べる。それが全てだと思っていた方がいいと思います。そして、かねて竹中さんと打ち合わせたとおりに意見を述べる。竹中さんは、ああ良い意見を頂きました、それで取りまとめましょうと言う。私などが反論しようとしても、この民間議員が4人でとうとうと述べた後に、残り5分で反論しろと言われる。私は1人の民間議員が言った後に、1人ずつ反論させると。そうじゃないとフェアじゃないと言ったのですが、大体こんなやり方をするわけであります。

この4人の体質は、率直に言いますけれども、こんな思い上がりの極とでもいうような人たちはいません。1つだけ、ご紹介します。

私と議論したときに、私がこの人たちに向かって、国会決議とあんたが言っていることは違う、矛盾していると言ったことがあります。そのとき彼らが何と言ったか。国会決議なんか無視すればいいんだと言い放ったのであります。国会全体を無視すればいいと言い放った。これが彼ら民間議員の体質であります。

新自由主義、市場経済と 日本の医療は相容れない

彼らが何を言ってきたか。一言で言えば、日本をアメリカにすればいいという主張であります。新自由主義であれ、市場原理であれ、みんなそういうことであります。

そもそも私に言わせてもらおうと、そのことと日本の医療は絶対に相容れないと思っております。日本の医療ほど、完全な社会主義でやっている制度はないのであります。素人風に申し上げます。盲腸の手術を北海道の札幌でやっても、鹿児島のパラセキでやっても、どんな病院でやっても、どの先生が手術

をされようとも、同じ価格です。国全体で統一価格でやっている制度でありますから、社会主義そのものであります。それでやっている日本の医療を、新自由主義だと言って、相容れるわけがありません。子供でも分かる理屈が分かってない。それを平気で言っているのが、あの経済財政諮問会議の学者の人たちです。

曲学阿世の徒

私は、経済財政諮問会議の人たちと付き合うまでは、学者という人たちは、もっとまともな人たちだと思っていました。自分の主義主張は政治家、自分の理論、理屈、これに命を賭ける人たちが学者だと思っていました。そういう人たちをたくさん見てきましたけれども、あの経済財政諮問会議にいる学者などといったら、権力にすり寄ることだけを旨としている人たちです。一言だけではっきり言いますが、曲学阿世の徒なんていうのは、あの人たちのためにある言葉だと思っております。

とにかく世の中全て金の人たちですから、口を開けば、金。その金の面から、表向き日本の現在の姿を憂いた。国の財政が借金地獄になっている。これを憂いた。何とかしなければいけない。確かに、そういうふうには言え、日本財政、借金地獄と言ってもいいと思います。国は巨額な借金をしています。借金ですから、利息を払わなければいけない。今、日本政府は、毎分1,700万円の利息を払わなければならないほどの借金を抱えております。大変だという人たちは、とどのつまりは自分の金儲けに、大変だ大変だと騒ぐことによって、金儲けにつなげようと思っていて、大騒ぎをする。

しかし、大変だ大変だと騒ぐほどには、私は大変でないと思っています。なぜか。日本の借金は、別に外国から借りておりません。例え話で言うと、だんなの収入が少ないから、奥さんのへそくりから借りているようなものであり、これでもってこの家が破産することはない。その例えで言っているのが日本だと思っております。ですから、大変だと騒ぐほどには大変でないと思います。

プライマリーバランスの回復

それで小泉内閣、経済財政諮問会議は何と言ったか。2011年までに何とかプライマリーバランスを回復しなければならないと言ったわけであります。プライマリーバランスを回復するということはどういうことか。これは、日本は借金体質でありますから、毎年借金を返すのに、借金してきて、借金を返しているわけであります。

分かりやすい数字で言うと、100万円借りてきて、借金を100万円返していれば、借金総額は増えません。今、日本は、100万円借金をしてきて、90万円を借金返済に充てて、10万円はまた必要経費として使っている。この10万円ずつが、また借金総額に上乗せされていっているというのが現状でありますから、せめてこれはやめよう。借金総額が増えないように、借金を続けることはしょうがないけれども、借りてきた借金は、全額借金返済に充てる。それで2011年にプライマリーバランスを回復する。そういうことをやりたいという。

これは国の財政であっても、会社であっても、ご家庭であっても一緒でありますけれども、収支のバランスが崩れているわけでありますから、収入に支出を合わすか、支出の分に合うように収入を増やすか。両方から少し縮めてバランスをとるか、それしかないわけであります。

小泉内閣は、徹底して支出を減らす、収入に支出を合わす、それでバランスをとる。そういうふうと言ったわけであります。

国家国民のために財源を確保すべき

私は、これも基本的に違うところが1つあると思っています。国と、家庭の収支を合わすということは違う。国というのは国家ですから、国民のためにやらなければならないことがあるのです。それはやらなければならない。金がないからやらないと言ったら、まずいのです。国家です。国民に対してやらなければならないことがあります。これはきちり積み上げなければいけない。これだけは要ると



いうことを言わなければいけません。そして、それで収入が合わないのなら、収入の方を合わすしかありません。増税すればいいんですと、私は言い続けております。

ただ、小泉さんは違うことを言い、削れと言った。私は大臣のときに、いつもこのところから経済財政諮問会議と議論をしていました。彼らは、だから医療費を、社会保障を、収入よりも上回っているのだから、総額のところで削れと言うのです。私は、そんなことはできない。無駄はできるだけ削るけれども、必要な金は積み上げなければならないだろうと。日本の医療というのは、このぐらい必要ではないかと、その計算をすべきだと、これでいつももめていたわけであります。私は今日もそのことを申し上げたつもりであります。

2200億円の社会保障費削減が 医療崩壊を招いた

そして、彼らが何と言ったか。2002年に遡るわけであります。2002年、平成14年、これからの5年間で社会保障費を1兆1,000億円削減と言ったのであります。そんなことはだめだと言ったけれども、経済財政諮問会議全盛時代、小泉さんの絶頂期でありますから、はたが何と言おうと強引にそれを決めました。5年間で1兆1,000億円でありますから、毎年2,200億円削減と言ったのであります。これも、どうぞもう一回、先生方知っておいてください。無駄を削れと言ったのではないのです。今、自然増の部分をなどと、何かごまかして言っていますけれども、はっきり言えば、義務的経費、法律で決めていて、国がこれだけのことは国民のためにしますとい

う約束をしていることを、制度上そうなっているところを、そこから削れと言ったわけです。だから社会保障がずたずたになったのです。どうしても必要な分を削れと言ったのです。苦し紛れに、生活保護から削った年もあります。何日か前の党首討論で、散々うち（自民党）の麻生さんがやられた。自民党というのは、そこまで冷たいことをするのか。生活保護の母子加算も削るのかとやられた。まさにここから始まっているのです。

どうぞ先生方、今日ははっきり数字を申し上げますけれども、2,200億円削れというと、こんな額を削れるのは医療費しかありません。毎回診療報酬から削ってきたのは、ご案内のとおりであります。平成14年の診療報酬で、2,200億円のうちの1,800億円を削りました。次の16年、720億円削りました。18年の診療報酬に至っては、2,200億円削れば済むものを、それを通り越して2,390億円削っています。これが今日の日本の医療をずたずたにした、医療崩壊を招いた全てだと言っていいのです。

骨太の方針2009の攻防

そして、やっと死ぬ思いで5年過ぎたと思ったときに、何と言ったか。5年間、見事に1兆1,000億円削りました。これまでの5年間でやってこれたのだから、これからの5年間でもできますよねって言ったのが「骨太の方針2006」です。恨み骨髄の2006です。これを今度の基本方針に、「2006を踏まえて」と書くと言うから、絶対だめだと言っているわけであります。今、この辺の攻防を繰り広げているということでもあります。

そろそろ時間になったと思いますので、この先をお話したいことは一杯ありますけれども、どうぞそういう攻防だということをご存じいただいて、倒れましたら骨ぐらひは拾ってくださいとお願い申し上げて、終わりにさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(文責 北海道医師連盟)

◇尾辻秀久先生の主なプロフィール◇

○昭和15年10月鹿児島県生まれ。

○選挙区：比例代表

○当選回数：4回（平成19年7月施行）

○現役職

参議院自由民主党議員会長、自民党社会保障制度調査会社会保険庁等の改革ワーキンググループ主査、参議院財政金融委員会委員

○議員連盟・団体

遺家族議員協議会幹事長、ドミニカ共和国への日本人移住者問題解決を進める国会議員懇談会会長、日本モンゴル友好議連会長、生活衛生議員連盟副会長、国防議員連盟事務総長、日本遺族会副会長、鹿児島県遺族会会長、九州体操協会会長、全国保育政治連盟顧問、全国私立保育園推進連盟副会長

○主な経歴

厚生労働大臣、自民党厚生労働部会長、参議院財政金融委員会筆頭理事、参議院政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会委員、予算委員会筆頭理事、個人情報保護に関する特別委員長、参議院自民党政審会長代理、財務副大臣、参議院予算委員会理事、参議院国会移転に関する特別委員会筆頭理事、参議院選挙制度特別委員長、参議院国家基本政策委員会理事、参議院国民福祉委員会（旧厚生委員会）委員長、参議院厚生委員会理事、総務政務次官、沖縄開発政務次官、参議院自民党国会対策筆頭副委員長、自民党政調副会長、自民党副幹事長、与党少子化対策検討会参議院自民党代表、自民党恩給制度調査会長、自民党社会部会副部会長

西島英利参議院議員の後援会活動を各地域で展開

北海道医師連盟は、平成20年6月21日開催の郡市代表者会で、平成22年7月施行の第22回参議院議員通常選挙の比例代表推薦候補者として現参議院議員の西島英利氏の推薦を決定いたしました。全国の医師連盟では西島議員の地元、福岡県医師連盟（6月5日）に続く早い時期の推薦決定であります。

当医師連盟では、これまでの参院選挙の反省に立ち、早期からの後援会活動の大切さを実感し、独自に推薦を決定して以降、道内各地域で地元医師会のご協力を得ながら、順次国政報告会等の後援会活動を行っております。

当医師連盟は、選挙施行までの期間、西島議員の人柄と実績等を当医師連盟員はじめ多くの支援者の方々に理解いただき、幅広く認知度・浸透度を高めるための活動を積極的に展開して参ります。

連盟員各位には、ご家族、ご自身お勤めの医療機関等関係者や、ご友人、知人の方々をお誘いのうえ、ぜひ会場に足を運んでいただき、西島議員に対して激励の声を掛けていただきますようお願い申し上げます。

以下に、これまでに開催いたしました各地域での後援会活動の模様をご紹介します。

○平成20年7月25日（金）、岩見沢市他、 ・空知ブロック内2郡市医師連盟、 岩見沢市医師会

午後から夕張市医師連盟・築詰彰彦委員長、空知南部医師連盟・梶 良行委員長（栗山町）を表敬訪問。

午後6時30分、岩見沢市内で開催された同医師会恒例の会員懇親会に出席し、国政報告会を兼ねて懇談。（道医連から宮本慎一副委員長が出席）



○平成20年7月26日（土）、深川市他、 ・空知ブロック内5郡市医師連盟、深川医師連盟、北海道医師会

午前、美瑛市医師連盟・井門 明委員長、空知医師連盟・小泉 洸委員長（砂川市）、滝川市医師連盟・鈴木忠男委員長、赤平市医師連盟・赤川清介委員長、芦別市医師連盟・藤嶋 彰委員長を表敬訪問。

午後12時30分、深川市内で深川医師連盟・吉本勲委員長他役員と国政報告会を兼ねて会食懇談。午後4時、北海道医師会館で開催の医療政策等検討委員会に出席し、国政報告会を兼ねて懇談。

○平成20年9月20日（土）、北見市他、 ・北見医師連盟

午後4時、北見医師会主催、北見歯科医師会・北見薬剤師会後援の「市民フォーラムと西島参議院議員の講演会」の第2部で『私は「医療」から、この日本を元気にしたい』と題して講演。

午後6時30分、北見医師連盟主催の国政報告会で講演後、北見ブロック会議（北見・網走・紋別・美幌・遠軽5医師会）から「医療制度の充実にする要望書」を受け、引続き地元医師連盟役員等と懇談。（道医連から長瀬委員長、宮本慎一副委員長が出席）



○平成20年10月17日（金）、釧路市、
・釧路市医師連盟

午後 6 時30分、釧路市医師連盟主催の「国政報告会」では、「これからの社会保障」と題して講演。（道医連から長瀬委員長、直江常任執行委員が出席）



○平成21年 2 月 7 日（土）、函館市、
・渡島医師連盟

午後 4 時、函館市内で開催された渡島医師連盟主催の「医政研修会」では、「これからの社会保障」と題して講演。（道医連から宮本慎一副委員長が出席）



○平成21年 7 月17日（金）、旭川市他、
・旭川市医師連盟

午後 1 時30分、富良野医師連盟・高橋尚志委員長他役員と国政報告会を兼ねて昼食懇談会の後、市内の医療機関を表敬訪問。

午後 6 時30分、旭川市医師連盟主催の国政報告会では、「社会保障の課題」と題して講演。

来賓挨拶では、日本医師連盟の羽生田俊常任執行委員が西島候補の経歴等を紹介し次期参院選での支援をお願いした。（道医連から長瀬委員長、宮本慎一副委員長が出席）



○平成21年 7 月18日（土）、稚内市他、
・宗谷医師連盟

午前、上川郡中央医師連盟・椎名忠弘委員長、上川北部医師連盟・松塚信男副委員長、上川北部医師連盟・吉田肇委員長、上川北部医師会事務局を表敬訪問。午後 1 時、上川北部医師連盟役員と国政報告会を兼ねて昼食懇談会。

午後 6 時、稚内市での国政報告会では、「社会保障の課題」と題して講演。来賓挨拶では、羽生田日医連常任執行委員が西島候補の支援をお願いした。（道医連から長瀬委員長、宮本慎一副委員長、旭川市医師連盟から増田委員長が出席）



第45回衆議院議員総選挙関連情報

一小選挙区候補者の推薦決定と支援活動について一

平成21年1月14日付、道医連ニュース版平成21年1号で既報のとおり、北海道医師連盟では、昨年10月13日開催の平成20年度第2回道医連郡市代表者会におきまして、第45回衆議院議員総選挙における当医師連盟としての「候補者推薦の基本的考え方」(次頁)を決定し、それに基づき道内小選挙区の立候補予定者であり、当該小選挙区内の郡市医師連盟が一致して推薦する方々について推薦を決定しております。その後、一小選挙区の立候補予定者1名の推薦を決定し、これまで道内12小選挙区のうち9つの小選挙区について下表のとおり推薦を決定しております。

今般選挙に際して日本医師連盟は、去る本年6月30日開催の執行委員会で、諸情勢に鑑みて、「衆議院議員選挙に臨む方針」(下欄)を改めて確認し承認しました。この議題の結びに、唐澤祥人委員長は、「都道府県医師連盟においては日本医師連盟の主旨に則った行動をお願いしたい」と重ねて述べました。

衆議院議員総選挙は8月18日(火)公示、8月30日(日)投票がほぼ確定しております。

連盟員各位におかれましては、今般選挙が明年7月施行予定の第22回参議院議員通常選挙の前哨戦としてきわめて重要な選挙でありますことを念頭において、適切な選択行動を執られるよう切にお願い申し上げます。

選挙区	所管地域	氏 名	政党
1区	札幌市(中央区、南区、西区)	長谷川 岳	自由民主党
2区	札幌市(北区、東区)	吉 川 貴 盛	自由民主党
3区	札幌市(白石区、豊平区、清田区)	石 崎 岳	自由民主党
5区	札幌市(厚別区)、江別市、千歳市、恵庭市、石狩市、北広島市、石狩支庁管内	町 村 信 孝	自由民主党
6区	旭川市、士別市、名寄市、富良野市、上川支庁管内	今 津 寛	自由民主党
7区	釧路市、根室市、釧路支庁管内、根室支庁管内	伊 東 良 孝	自由民主党
10区	夕張市、岩見沢市、留萌市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、空知支庁管内、留萌支庁管内	飯 島 夕 雁	自由民主党
11区	帯広市、十勝支庁管内	中 川 昭 一	自由民主党
12区	北見市、紋別市、網走市、稚内市、網走支庁管内、宗谷支庁管内	武 部 勤	自由民主党

衆議院議員選挙に臨む方針

1. 衆議院議員選挙に関する日本医師連盟推薦候補者については、都道府県医師連盟の推薦要請に基づき、日本医師連盟が決定することを基本としている。
2. 日本医師連盟は、日本医師会の医療政策を最も理解し、かつ政策実現能力を有する自民党を中心とした政権与党の候補者を推薦する。
3. 全国の日本医師連盟会員は、一丸となって国民医療の確保と充実を目指している。これらの目的達成のために、各地域の会員には日本医師連盟の主旨に則った行動を願う。

平成20年9月17日

日本医師連盟 委員長 唐澤祥人

第45回衆議院議員選挙における候補者推薦の基本的考え方

平成20年10月13日 北海道医師連盟

1. 北海道医師会の理念を十分に理解し、北海道医師会の政策遂行に協力できる候補者を推薦する。
2. 政権与党である自由民主党を支持することを一義とするが、候補者個人の見識、人間性、政治姿勢、政策立案能力および活動実績を参考にして推薦する。
3. 北海道医師連盟は、各郡市医師連盟の意見を尊重しかつ地域の特性を考慮し、北海道医師連盟執行委員会にて推薦を決定する。

※「第45回衆議院議員選挙における候補者推薦の基本的考え方」に関わる北海道医師連盟の機関決定の経緯は、平成21年 1 月14日発行の道医連ニュース版平成21年 1 号本紙、または、当医師連盟のホームページに掲載の同紙および「重要情報」をご参照願います。

※西島英利参議院議員に関わる道内各郡市医師連盟における後援会活動の様様や、西島議員の国政の場での活動報告も当医師連盟のホームページからご覧いただけます。

[http : //www.doiren.jp](http://www.doiren.jp)